

ずし よしつぐ 辻子 恵紹 氏 新たなる「旅立ち」

(株)恵興創業者 会長お別れ会



会場となった船「シンフォニー クラシカ」



特別クルーズ船は参列者の想いを乗せて正午に出航

東京都島嶼部（とうきょうととうしょぶ）向け、一般貨物や産業機械等の重量物の運送業務や発電機等に関わる搬入業務・据付施工・配管施工等に注力して手がける株式会社恵興（けいこう。東京都港区芝公園二丁目12番17号）。創業者で永らく代表取締役を務められた辻子恵紹（ずし・よしつぐ）氏が先頃、亡くなりました。享年86歳。既に葬儀は近親者のみでしめやかに執り行われました。

4月22日（月）、故人と親交が深い方々を来賓に迎え、謹んで『辻子恵紹・会長お別れ会』が行われました。内発協で理事を務める株式会社第一テクノ（北島久夫社長。東京都品川区）の北島久夫氏と日本機工株式会社（井口慶一社長。東京都港区）の取締役会長の八箇真佐之氏を含め、約250人の参列者がおっとり刀で駆け付け、ご冥福をお祈りしました。会場は東京湾港内を巡る「特別クルーズ船内」。始めに、恵興の代表取締役社長で故人の次男の辻子恵介（ずし・けいすけ）氏が開会挨拶として参列者に感謝の言葉を述べました。

辻子恵介氏は「今年2月12日、父は86歳で人生の幕を降ろし永眠しました。1959年に東京芝浦で創業。東海汽船様の一般貨物の海上輸送に加え、伊豆七島向け産業機械等重量物の海上輸送と現地設置に取り組み。今年5月18日に創業65周年を迎えます。皆様にはお礼申し上げます」と述べました。



辻子恵紹氏の遺影（左）と愛用のジャケットと帽子

また「父の薫陶は『感謝と信義（真心）を持って仕事には対応せよ』です。父が大好きな船上にてお別れ会を開催させて頂くことにより、ご参列頂いた皆様には心より感謝の意を表します」と述べました。

東海汽船株式会社の代表取締役社長の山崎潤一（やまざき・じゅんいち）氏は参列者を代表して弔辞を述べました。その中で「謹んで哀悼の意を表します。辻子会長は弊社の貨物に加え、小笠原諸島や八丈島への発電機等重量物の海上輸送・陸上運搬・据付等、積極的に取り組み成果を挙げて人脈を拡げ、信頼関係を構築されました。面倒見が良く優しい人でした。小笠原では気に入った船を即決購入し、後日1級船舶免許を取得した逸話を持つ等、頭の回転が速く決断と実行の努力家でした。深い感謝

と共に、安らかな永眠を心よりお祈りします」と述べました。

続いて、船首側に特別に設置された花々が遺影に彩りを添える献花台にて参列者が順番に、旅立った故人に白い花を一輪たむけると共に、別れの祈りをささげました。

その後、同じ船内で会場を移し、会食も行われました。挨拶に立った株式会社第一テクノのOBの片柳彬（かたやなぎ・あきら）氏は「伊豆七島・小笠原諸島等の東京都島嶼部（とうきょうととうしょぶ）向け、常用動力用のディーゼル発電機の販売・据付工

事を私が担当し、辻子会長とご縁を得ました。辻子会長は水処理事業にも精通され、都の下水処理施設で使用される1,500ミリ配管をみせて下さり、私は大口径に驚いたことを覚えています。弊社の前身の第一工事株式会社の当時から約47年間、親交を深めて来ました」と述べました。

続いて、片柳氏の発声で参列者全員が献杯を行いました。会場では辻子恵紹会長の思い出写真がモニター画面いっぱい、走馬灯のように次々と映し出されました。恵興社員と参列者の全員が一堂に会し、辻子恵紹会長を思い起こして語り合いました。



在りし日の辻子恵紹会長
仕事のため訪れた南鳥島にて



会長（前列左3人目）と社長（同4人目）を囲み
社員皆様が記念撮影